

学校図書館職員に関する実態調査（個人向け）の最後の設問「学校図書館で働く中で、思うことがあればお書きください。」には、640人の回答があった。この回答の整理にあたり、勤務形態により回答内容が異なることを考慮し、勤務形態別の回答数を調べた。

1 勤務形態別の回答数

正規職員 計 77

小学校 11 義務教育学校 1 中学校 8 特別支援学校 1 中等教育学校 6
高校 50（うち私立学校 11、私立学校 11 の中に専任司書教諭 2、授業と兼務 1、事務兼務 1、が含まれる）

会計年度任用職員（フルタイム&パートタイム） 計 468

小学校・1校専任 187 義務教育学校&小中併設校・1校専任 4
中学校・1校専任 92 特別支援学校・1校専任 4 中等教育学校・1校専任 1
高校・1校専任 40
小学校・2校兼務 40（うち1は村立図書館と兼務） 義務教育学校・2校兼務 2
中学校・2校兼務 16 高校・2校兼務 1
小学校・3校兼務 18 義務教育学校・3校兼務 1 中学校・3校兼務 3
高校・3校兼務 1
小学校・4校兼務 20（うち4は中学校を含む4校兼務） 義務教育学校・4校兼務 1
中学校・4校兼務 1
小学校・5校兼務 12（うち5は中学校を含む5校兼務）
小学校・7~9校兼務 5
1校に複数名の配置 19（義務教育学校 1 中等教育学校 1 高校 17）

臨時的任用職員、再任用・再雇用職員 計 13

小学校・1校専任 1 中等教育学校・1校専任 1 高校・1校専任 11

嘱託職員、任期付職員、非正規雇用職員 計 42

小学校・1校専任 7 義務教育学校・1校専任 2 中学校・1校専任 1
中等教育学校・1校専任 2 高校・1校専任 25 小学校・3校兼務 2
小学校・4校兼務 1 1校に複数名の配置 2（中等教育学校 1 高校 1）

外部委託・派遣・指定管理 計 30

小学校・1校専任 10 中学校・1校専任 1 中学校・公共図書館と兼務 1
中等教育学校・1校専任 1 高校・1校専任 3 小学校・2校兼務 4
義務教育学校・2校兼務 1 高校・2校兼務 1 小学校・3校兼務 1
中学校・3校兼務 1 小学校・4校兼務 2
1校に複数名の配置 4（小学校 3 高校 1）

有償ボランティア 計 10

小学校・1校専任 6 中学校・1校専任 1 小学校・2校兼務 2

1校に複数名の配置1（小学校1）

2 自由記述意見の扱いについて

- ・意見をカテゴリーに分けることを試みたが、以下の記述例1のように、1つの意見に、複数のカテゴリーを含む意見がある。本報告では、カテゴリーの①から⑱までを示す。カテゴリーの後の数値は、1つの意見を1つのカテゴリーにした関係で、実数ではなく実際にはもっと大きな数字になる。

記述例1（公立・小学校・1校専任・P会計年度）

とにかく給料が低い。生活ができない。学校内において司書の業務への理解がない。（教員は司書がどういうものか知らない）。公共図書館児童担当と小学校司書の両方を経験したが、公共図書館に比べ、小学校図書室は利用冊数と利用頻度が比べ物にならない程多い。常に児童に寄り添っているのは学校図書室である。それであるにも関わらず、公共図書館に比べ図書購入予算は少なく、古く汚い図書をいつまでも使い続ける必要がある。児童が新しい情報に触れる情報センターとしての役割を果たせずにいる。能力のある司書がいても、図書室を作る予算もなく、勤務時間も給料もパートアルバイトの扱いである。

→ カテゴリー③にしたが、②の内容もある。

- ・長文の意見（3）があった。この場合も、便宜上、1つのカテゴリーに分けた。

カテゴリー① 待遇改善、安定した雇用、正規雇用の実現など 73

記述例2（公立・小・1校専任・P会計年度）

私は自治体公務員出身だが、教育委員会の経験がなかったので、学校はまるで異世界のような感じだった。自治体初の学校司書だったが、マニュアルもなく、教育委員会からも学校からも放置状態。最初の1年は言葉を交わす教員も少なく、職員室は針のむしろの状態、とても辛い思いをした。6年目になり、新教育長に日頃の訴えが通り、ようやく学校図書館、学校司書のマニュアルが作成されようとしている。勤務条件や学校での待遇は、他の方の悲惨なつぶやきを見る度に恵まれている方かとは思いますが、専門職の会計年度職員は、雇用期間を3年以上にして欲しい。来年度は居ないかとも思いながら、毎年来年度の準備をするのは虚しすぎる。

記述例3（公立・特別支援・1校専任・P会計年度）

まだまだ改善が必要。完全にオーバーワーク。非正規で時間も短い、教員と同じ時間いて当たり前と思われている。そして管理職も仕方ないと思っている。それでいて立場は低く、雇用環境も安定しない。雇い止めに怯えながら新年度を待つことになる。どうにか雇用だけは安定させてほしい。会計年度になっていいことがなにもない。ボーナスは出るが、月給は減っている。意味がない。

記述例4（公立・中学校・1校専任・F会計年度）

会計任用職員に頼りきりになるのではなく、正規職員として採用し、安定した立場で働きたいです。

記述例5（公立・小学校・4校兼務うち2校は中学校・P会計年度）

複数校勤務では、本当に時間が足りない。毎日勤務なら一週間かからない事も週1では一ヶ月以

上かかる。週1だから働けるという人もいるとは思いますが、1校専任週5フルタイム（朝の読み聞かせから6限終了まで）で仕事ができれば、と思う。

カテゴリ② 学校図書館と学校司書の仕事が理解されていない（管理職、教員、自治体ほか） 64

記述例6 （公立・小学校・1校専任・P会計年度）

1人職場のことが多いので、ひとりよがりになりがちの上監査もないので、学校格差が生まれてしまう。また管理職の考え一つで有効活用されたり無視されたりするのも学校格差となっている。図書館の存在もだが、学校司書個人に対しても同じ。多くの学校で学校図書館と司書は軽視されている。（授業に遅れることが当たり前で来ない時も連絡なし、担任不在で子どもだけ送り込む、逆に確認なしで急に来館するなど、他の専科では決してしないことが罷り通る）

記述例7 （公立・中学校・1校専任・P会計年度）

行政（人事）が、図書館司書の仕事の重要性を理解していないため、司書の雇用面など軽視されている。学校現場の正職員を減らして、全員会計年度職員にする流れがある。図書館教育は、学校全体の共通理解で、全職員で行うべきものであるのに、教員の関心の有無に任されている所が問題。図書館教育の意識が高い司書教諭（図書館主任）の配置と、図書館業務を行うための時間確保が必要。（以下省略）

記述例8 （公立・高校・1校専任・P会計年度）

図書館担当の先生から、司書なんかTSUTAYAの書店員だと皆思っているとされたことがある。司書のレベル事態が全体的に上がっていかないといつまでも認めて貰えない。

記述例9 （公立・中学校・司書不在で司書業務の一部を担当・P会計年度）

読書の推進や本で調べることの大切さを生徒に伝えるには、教員への教育が不可欠であると感じます。どんなに生徒が本に興味を持って、担任から「受験生だからほどほどにしろ」という指導をされたり、調べ学習の際に図書館を使おうという選択肢すらない教員がほとんどなので、専任学校司書設置を拡げるとともに、教員への周知や研修も充実させなければ、本来の学校図書館の機能を果たすことはできません。

記述例10 （公立・小学校・2校兼務・P会計年度）

自治体の学校図書館・学校司書に対する認識が低すぎる。図書ボランティアがいれば良いと思っているようだ。週に一日勤務で一体何ができるのか。悲しくなります。

カテゴリ③ 待遇が悪い 49

記述例11 （公立・小学校・1校専任・P会計年度）

学校司書はとても弱い立場である。今年はたまたま一校専任で働きやすい学校だが、去年までは2校兼任で机もない日があった。モラハラやパワハラまがいのこともあったが、誰にも言えなかった。市内の小学校で一校専任は4校のみ。次に異動するときは恐らく2校兼任になる。今から憂鬱だ。そのタイミングで転職するかもしれない。

記述例12 （公立・小学校・1校専任・P会計年度）

交通費を実費支給してくれないことにずっとややもやしている。くらしてゆけないぐらいの低賃金も本当につらい。学校司書は専門職だと自負しているが、意に反して対応は限りなく軽々しく、捨て駒扱いでかなしい。毎日、辞めたい、辞めたい、と思いながら登校している。パワハラもある。底辺のかなしさは体験しているひとにしかわからないと思う。20年近く働いているがよ

くなったことはひとつもない。非正規雇用や、会計年度任用職員なんて制度をつくった輩を一生恨んでも恨みきれない。

カテゴリ④ 楽しい、続けたい、頑張っていきたい 39

記述例 13 (公立・小学校・1校専任・P 会計年度)

子供たちとの触れ合いは、やる気に繋がり、何者にもかえがたい幸せと感じる。給与水準が伴えば長く続けたい仕事だと思う。

記述例 14 (公立・小学校・1校専任・P 会計年度)

子どもたちがうれしそうな顔で借りた本を持ち帰る姿を見ると、こちらもうれしくなります。本を読んで知る世界、読んで調べて得る知識、読むことの楽しさを伝えていけたらと思っています。

記述例 15 (公立・小学校・2校兼務・P 会計年度)

子ども達の読書や学びをサポートすることが主な仕事ではあるが、担任以外だからこそ知り得たり、気づいたりすることもある。そういったことを先生方と共有し、よりよい指導につなげられたり、成長を見られることは嬉しい。

カテゴリ⑤ 疎外感、孤独感、お客様感、相談相手がいない、ほか 35

記述例 16 (公立・中学校・1校専任・F 会計年度)

とにかく孤独。先生との連携というが、努力するのは司書ばかり。教員以外は基本信用されていない学校文化の中ではとても辛い立場である。仕事量や責任の大きさを考えると割に合わない。

記述例 17 (公立・中学校・1校専任・P 会計年度)

非正規の雇用だと、学校ではお客さん扱いが多く、情報も入りにくいし、意見が言えない。ギガスクールが始まってしばらくになるが、タブレットもアカウントももらえないようでは、図書館は趣味の本を読む場所になってしまう。図書館の本を使ってもらうために色々努力しているが、朝読書もなくなり、できることが限られると思ってしまう。

記述例 18 (抜粋) (公立・中学校・1校専任・正規職員)

自治体から派遣されているので学校では部外者扱い。環境を自治体の上司(課長)等に相談しても部外者扱い。いてもいなくても良い存在と自治体から思われている。また、異動が少なく1校に10年以上在籍している司書(会計年度職員)が多く、図書室に対する思い入れが強くなるからなのか、会計年度職員より少数の正規職員が主体となって自治体内の学校司書同士のコミュニティを構築しようと試みるものの、あまり協力を得られない。

カテゴリ⑥ 限界を感じる、やる気を失ったなど 18

記述例 19 (公立・小学校・4校兼務・P 会計年度)

疲れ果てました。仕事内容は良いと思いますが、これだけやってきてもひどい待遇のところばかりで、失望、絶望感でいっぱいです。自治体格差、学校間格差もはなはだしい。夢も希望もすっかり失いました。良い仕事なのに非常に残念です。仕事としての待遇もですが、図書予算10万とか、児童の読書・学習環境もひどいので、ますますモチベーション低下も。

記述例 20 (公立・小学校・3校兼務・P 会計年度)

初めの数年は向上心を持って働いていたが、学校司書の限界、必要性の低さを感じることも多く、そのうちワークライフバランスをとるために、手を抜きがちになっている。この程度でも大

丈夫という、加減を覚えてきてしまっている。頑張っても、おざなりにやっている学校司書と給料が同じというのも、原因にあるかもしれない。

カテゴリー⑦ 同業の司書に対して 13

記述例 21 (公立・中学校・1校専任・P会計年度)

すごく好きな仕事を続けられていることに感謝しているが、たまたま自分の条件が続けられる状態(既婚、配偶者の収入がある)だから。自立した生活を送れる雇用条件ではない状態。日本全体でこのような状態ということは国も社会全体も「その程度の仕事だ」と認識しているように感じて辛い。一方で、「腰掛け程度で働きたい」と思っている同業者が多いのも事実。

記述例 22 (公立・高校・1校専任・P会計年度)

非正規待遇、パートタイム会計年度任用職員の立場で、専門職として扱われることはないため、学校組織内で司書としての提言が個人的な意見とみなされてしまう。雇用条件内で無理せず働きたい人からやりたいことがハイレベルになる人に対してやりすぎだと軋轢が生まれてしまう。

カテゴリー⑧ 学校司書を教職員の一人に 12

記述例 23 (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

学校司書も、経験を積み重ねることで、より良い仕事ができるようになります。人として、大切に扱ってほしいと思います。

記述例 24 (公立・小学校・4校兼務・P会計年度)

もっと学校職員の一人として、認識してもらいたいです。複数校やっていると、どの学校でもお客

さんのようになってしまい、うまく授業に関わっていくことができません。

カテゴリー⑨ 学校、自治体による格差 11

記述例 25 (公立・小学校・4校兼務うち2校は中学校・P会計年度)

同じ自治体なのに学校間の格差がひどい。巡回でたまにしか来ないこともあるが、あからさまに学校司書を無視する司書教諭がいたり、活動費用がないのに図書館ボランティアを始めて消耗品の自腹を切らなければならない学校もあれば、読書週間の1校時分を任せてくれて、人手や資材を提供してくださる学校もある。複数校公平にやって行きたくても限界があり、子供達に不利益が行ってしまうことが辛い。

カテゴリー⑩ 学校行事や学校の仕事が負担 11

記述例 26 (公立・中学校・1校専任・P会計年度)

学校現場は慢性的な人員不足で、図書館司書の仕事に加えて、教員のサポートスタッフと化している部分も多い。今後は司書限定の職務だけでなく学校職員としての業務が増えていく懸念がある。

記述例 27 (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

教科書事務と教師用指導書に関する全般を学校司書がたった一人で担うことが大変な負担であり、特に年度始めには図書館より教科書を優先せざるを得ない状況です。図書館の業務に全力で専念できたら良いのにと考えています。

カテゴリー⑪ 教師との連携、コミュニケーションの難しさ 10

記述例 28 (公立・小学校・2校兼務・P会計年度)

先生との連携が必要だが、どの先生も忙しすぎて、打合せする時間がない。

カテゴリ⑫ 子どもたちに 7

記述例 29 (公立・小学校・1校専任・F?会計年度)

子どもたちがゆっくり本と向き合い、読む時間が減っている。借りに来る子どもたちはいつも時間や課題に追われ、図書室にいられる時間が限られている。ゆっくり図書室で過ごす環境が整うと嬉しい。

記述例 30 (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

小学校にて勤務しています。幼児期からの公共図書館利用がかなり少ないまま小学校へ進級する児童が大変多いと感じます。学校のカリキュラムに公共図書館にて調べ学習を取り入れるなど、公共図書館がもっと身近になってほしいと感じます。公共図書館にてマナーも学べ、情報資源活用の力も身に付けられると思います。

カテゴリ⑬ 時間がない 5

記述例 31 (公立・中学校・1校専任・P会計年度)

校内情報を共有してほしい。掃除の指導や給食配膳に勤務時間を使い時間が不足している。

カテゴリ⑭ 差別される、先生より下に見られる 5

(うち3つの事例は、高校の正規職員、行政職の1人職種から。)

記述例 32 (公立・高校・1校専任・正規職員)

教員中心の職場のため、一人職種の行政職員は「被差別職種」になっている。そんな中、学校の多忙化が進み、ICT化によるデジタルストレスが急速に強まり、管理職等のパワハラもあって、心身の健康を損なってしまった。正規職員で療養休暇や休職制度が使えるため、25年以上どうにかやってこられたが、定年(65歳)まで続けられる自信はない。教員の働き方改革が話題になっているが、教員以外の少数職種へも光が当たると良いのに、と思う。

記述例 33 (抜粋) (公立・高校・1校専任・P会計年度)

学校図書館や学校図書館職員への認識があまり高くない教職員が多く、専門性を活かす機会が少ないことや、会計年度任用職員のため、差別されることがあるのは辛く感じる。

カテゴリ⑮ 学校司書の研修 5

記述例 34 (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

同じ自治体の学校司書同士、常に連絡や相談、情報交換などしながら、同じレベルのサービスを提供できるようにしたい。

カテゴリ⑯ 朝の読書がなくなった 3 (カテゴリ⑤にもう1例の記述あり、すべて中学校)

記述例 35 (公立・中学校・1校専任・P会計年度)

研修会などで、学校の教育活動の中に位置づけるように教わるが、学校も教育委員会も関心がな。特にGIGAスクールが始まってからは、調べ学習はタブレットが中心で、しかも、司書にはタブレットが配布されていないので、蚊帳の外だと思う。

朝読書も先生方の働き方改革という名目でなくなってしまい、それ以降、貸出数も生徒の読解力もどんどん落ちているような気がする。

カテゴリ⑰ 委託との比較 3

記述例 36 (抜粋) (公立・高校・1校専任・P会計年度)

昨年度までは委託会社から派遣されており、今年度より同じ学校で会計年度任用職員として採用されました。委託契約にもいろいろと弊害はありますが、問題がなければ同じ学校に長く勤める事が可能なこと・その反面流動的に働ける臨機応変さもある事・担当部署が明確で困った時に相談できた事、は利点だったと思います。

記述例 37 (抜粋) (公立・高校・1校に複数名の配置・P 会計年度)

業務委託で務めていた頃に比べて直接雇用の会計年度任用に代わり、学校の中での置かれ方、仕事のしやすさはだいぶ良くなりましたが、非正規という立場は教育活動に十分に寄与する上で、待遇や立場などにおいて足かせがあると感じています。

カテゴリー⑱ 教科書の配布 3 (回答はすべて中学校)

記述例 38 (抜粋) (公立・中学校・2校兼務・P 会計年度)

教科書購入について 全教科購入して貰える学校もあれば、国語の教科書すら購入して貰えない学校もあります。学校規模や校内事情で購入できないことがあるのは理解できましたが、教科書改定時には予算が付くので、『学校図書館に教科書を置かなければいけない』と定めて欲しいと思います。学校司書に、学校に対して教科書購入の交渉をさせないでほしいです。

○カテゴリー分けできなかった回答から

記述例 39 (私立・中等教育学校・1校専任・正規職員)

(私学の専任司書教諭の記述は他にもう1つある。)

36協定を結んでいないのに、教職調整をはらっているから残業してくれと、校長に言われる。また、司書教諭を学年の教員の「穴埋め」のように使う。行事の引率や休んだ教員の代行、試験監督や試験運営に駆り出される。図書館の仕事をきちんと理解してくれる管理職がいないと、教科の先生と同じように扱われてしまう。何度も上に働きかけても、改善されない。学校として、図書館をないがしろにしている感が否めない。

記述例 40 (長文 要約・抜粋) (公立・小学校・5校兼務・P 会計年度)

(この〇〇市は、自治体調査に無回答の4自治体の1つ。)

〇〇市では、5校勤務の形態になっている司書もいます。勤務時間外の勤務は、前日までに学校長の許可をもらった場合のみ、認められることになっています。飛び込みのことに対応して勤務時間外に仕事をしなければならない場合がほとんどなので、陰での「勤務時間外の勤務」をたくさんしています。

〇〇市では「スクールサポートスタッフ」という名称の事務支援員が配置されています。学校によっては、司書の配置がなかった頃から「図書事務」と呼んで司書の代わりの業務などをしてきたようです。司書が配置された現在でもそのスタッフは健在で、勤務日数は司書の勤務する日数よりも多いです。そのため、どちらが主か従かわからない状態になることがあります。我流で図書館業務をされたり、発言力が強かったり、悩ましい存在です。

記述例 41 (抜粋) (公立・小学校・1校専任・P 会計年度)

図書館にパソコンがないこと、プリンターもないこと、など不便も多い。やればやるだけ残業になるのでほどほどにすることにしている

記述例 42 (抜粋) (公立・小学校・2校兼務・P 会計年度)

(エアコンがないという記述は、ほかにカテゴリー⑱に1つ、エアコンが冷房のみという記述も1ある。)

1校図書室にはエアコンが入っていません。真夏35度を超える中作業するのはもちろん大変ですが、私は大人なのですぐにいろいろな対応ができます。子供が熱中症で倒れないかとても心配で、夏は図書室に来てとはなかなか言いづらいです。

記述例 43 (抜粋) (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

私が働く学校図書館だけなのか、退勤後の図書室の利用により部屋や書架の荒れ、システムを勝手に立ち上げておかしいことになっているPCなど、常にしりぬぐいをしている仕事である。

委員会活動で来る生徒も真面目な子ばかりではなく来ない子も多いのであてにできないし、図書システムをいい加減に使用するので貸し出しトラブルも多発している。とにかく貸し出した本が返ってこない。禁帯もいつの間にか持ち出されていたりして図書システムを通さず不明本が多発する。悲しくなる。

けれど、毎日図書室での読書を楽しみに来てくれる子たちもいるので、その子たちのお陰で頑張れている。

記述例 44 (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

〇〇市の学校図書館指導員は、自営業状態で、統一されたルールがないまま仕事をしています。赤木かん子に影響され、図書室シールだらけの学校もあり、異動してがくぜんとする場合があります。

記述例 45 (公立・小学校・2校兼務・有償ボランティア)

〇〇市の学校図書館サポーター(有償ボランティア)として活動しています(←働くという立場にもありません)。〇〇市は学校図書館司書職員を置かず、司書資格を持つ有償ボランティアを各校に配置しています。学校図書館司書職員配置希望の署名活動が功を奏し、2020年3月に議会で採択されたにもかかわらず、市は未だに職員としての配置を拒んでいます。

雇用契約ではないので、活動時間も年間560時間に限られていて、やる事がたくさんあるのに手が回らず、サービス残業をせざるを得ません。市側はボランティアなので、そこまでなくていいと考えているようですが、実際子ども達と接する現場は、私達サポーターがやらなければ先生も子ども達も困る状態です。

〇〇市の他の大学生有償ボランティアなどは1000円~1500円の謝礼金なのに、司書資格保有者の私達サポーターが900円なのも、納得がいかないところでもあります。まずはボランティアではなく、職員として働きたいです。

記述例 46 (抜粋) (公立・特別支援学校・1校専任・P会計年度)

まず特別支援学校は、そもそも図書館が設置されていないところが多い。この人権問題を知らない人多すぎる。もちろん通常校も整備するためのお金が不足している。アンケートなどで、すべて揃っているかのように答えるが、古い資料を捨てないなどは当たり前にある。専門性高く仕事をしているが、認めてもらえないし、必要とされない 等等

記述例 47 (公立・小学校・1校専任・F会計年度)

図書の仕事以外に、図書室登校児童のケアもある。不登校児が増加するなか、居場所としての需要が増加すると思う。学校司書には、不登校児や、発達障害を持つ児童に関しての知識が必要に

なってくると思う。前任者は、知識のないまま対応をしつづけた結果、心を病んで退職となった。

記述例 48 (抜粋) (公立・小学校・2校兼務・P 会計年度)

児童より「図書館司書はやりがい搾取なんだってね」という発言があった。聞けば、読んでいた小説の一節に、「司書の仕事はほとんどが非正規で不安定、正規職員と同じくらい激務なのに、給料は150～200万と激安」という話を主人公が聞き、それでもその職を選ぶのはそこに生きがいを見出しているからだ、とする文があったという。それを読んで冒頭の感想を持つに至ったようだ。何とも哀しい話である。

記述例 49 (抜粋) (公立・小学校・4校兼務・P 会計年度)

昨年度まで隣接する市の小学校で4年間学校司書をしていました。3年目から会計年度任用職員制度に伴い学校司書兼スクールサポートスタッフの立場となりましたが、職務の両立に悩み、今年度から現在の勤務をしています。4校兼任は想像以上に大変でした。

記述例 50 (公立・小中学校・3校兼務・P 会計年度)

学校の中での認識が低く、授業活用などの依頼が少ない。こちらからアプローチをしていったところ最近少しずつブックトークやワークショップなどの依頼が来るようになった。しかし管理職や教員が図書館司書の活用の仕方がわからないようで、図書整理のボランティア程度に思っている人もまだいる。こちらから提案も出来るが、時間が限られているので、やればやるほど自分の持ち帰り仕事が増えてしまう。SSS(スクールサポートスタッフ)と時給が同じで、専門性が認められていない。また、学校の雑務(行事の手伝い)なども求められている。

記述例 51 (抜粋) (公立・小学校・1校専任・P 会計年度)

公共図書館で正規司書の経験もありますが、学校司書の方が仕事が大変だと思います。なのに、何年キャリアを積んでも最低賃金レベルで悲しくなってきました。やりがい搾取です。

記述例 52 (私立・高校・2校兼務・派遣)

公共図書館の「グループで運営」と全く違い、「一人で運営」、しかも、仕事が多岐に渡り量も多いことに驚きました! 予算執行(今年はインボイスが!)や、図書館通信つくるの私! 図書委員会とか、大学図書館との連携とかもあって大忙し! 合間に選書して装備して除籍して! ぜんぶぜんぶ私の仕事! 毎日悲鳴出しながら仕事してます。でも、生徒が「あ、あった!」と本を手に取りカウンターに持ってくると、この仕事の喜びと誇りを感じて幸せになります。

○最後に

記述例 53 (公立・小学校・1校専任・F? 会計年度)(カテゴリーは④になる)

学校図書館は幅広い年齢の子どもたちとたくさん関わります。中には私生活で問題を抱える子ども少なくありません。そんな子どもたちに、担任とは違う立場で寄り添えること、広い視野で見守れること、居場所の提供ができること、自分の世界を守るような将来に希望を持てるような資料・本を提供できることなどが学校図書館の存在意義のひとつだと思っています。

学習の場所としてはもちろん、それだけではなく読書が楽しい場所、イベントが楽しい場所、心が落ち着く場所として図書館を運営できるよう子どもたちに関わっていけたらと思っています。

※ 本報告書の内容を引用する場合、必ず出典を明記してください。引用後は成果物を本会に1部送付をお願いします。